

「女めが書かく」とは何か――

近現代日本における女性文学の系譜をたどる決定版！
九十二人の女性作家のアンソロジー、
二〇二〇年三月完結！

【推薦します】

- ❖ 女性文学の歴史は、女性たちの呻吟の歩みそのものだ。
その苦難を読み、感じたい。——中川成美（立命館大学特任教授）
- ❖ 滋味に富みながら、これまで光のあたらなかつた短編にも目を配り、女性文学史を読みかえる好機と希望とを与えてくれる。全巻、読みつくしたい。——田中綾子（浦綾子記念文学館館長）
- ❖ 活字印刷された日本語で、女性たちが自分の思いと社会への批判を表現した、二〇余年の軌跡に瞠目する。——小森陽一（東京大学教授）
- ❖ 「ぐもつたっぷやき、嘆き、笑い、強い自己主張。そこには私自身がいる。——狩野啓子（久留米大学教授）

〔新編〕

岩淵宏子十
長谷川啓〔監修〕

全12巻



日本女性文学大全集

六花出版

新編 日本女性文学全集

作品一覧

◆責任編集 渡邊澄子



浜離宮にて。左から吉屋信子、平林たい子、宇野千代、壺井栄、佐多稻子（1954年）

三宅花園 —八六八／一九四二— 東京都生まれ
中島湘煙 蔦の鶯／八重桜／萩桔梗
木村曙 —八六〇／一九〇一— 京都市生まれ
若松賤子 —八六四／一八九六— 福島県会津若松市生まれ
清水紫琴 —八六八／一九三二— 岡山県備前市生まれ

わかもつしげ
さかわいなぶね
しみしきん
わかもつしげ
さかわいなぶね
しみしきん
わかもつしげ
さかわいなぶね
しみしきん

婦女の鑑
同胞姉妹に告ぐ／山間の名花／湘煙日記（抄）
花嫁のベール／小公子
泣いて愛する姉妹に告ぐ／女文學者何ぞ出ることの遅きや／こわれ指環／
一青年異様の述懐／移民学園

◆責任編集 北田幸恵

樋口一葉 —八七一／一八九六— 東京都生まれ
雪の日／琴の音／花ごもり／やみ夜／大つごもり
たけくらべ／軒もる月／にぎりえ／十三夜
わかれ道／裏紫／われから／日記抄
北田薄氷 —八七四／一八九六— 山形県鶴岡市生まれ
八七六／一九〇〇— 大阪市生まれ
三人やもめ／浅ましの姿／鬼千疋／黒眼鏡
乳母／白髪染
月にうたふさんげのひとふし／医学修業
しろばら／五大堂
田沢稻舟 —八七六／一九〇〇— 大阪市生まれ
八七四／一八九六— 山形県鶴岡市生まれ
八七六／一九〇〇— 大阪市生まれ
あしたの露／おもかけ／絶交／日本魂／最後の夢
舷鉄砲／死出の道呻
兵士／しのび音／自伝落葉のくに

◆責任編集 吉川豊子

大塚楠緒子 —八七五／一九一〇— 東京都生まれ
応募兵／いつまで草／志のび音／金時計
みなそこ／軍事小説／美人／湯の香／ひかりもの
命の親／白馬／客間／虞美人草／交通遮断
森しげ —八八〇／一九三六— 東京都生まれ
内証事／おそろひ／おはま
岡田八千代 —八八三／一九五六— 富山市生まれ
おかだやか
おひさまきく
尾島菊子 —八七九／一九五六— 富山市生まれ
妹の縁／赤坂／老／河原の対面
水野仙子 —八八八／一九一九— 福島県須賀川市生まれ
くにきだはる
國木田治子 —八七九／一九五六— 愛知県豊橋市生まれ
おひさまきく
小栗籌子 —八八三／一九五六— 愛知県豊橋市生まれ
多事／おきな
永代美知代 —八八五／一九六八— 広島県府中市生まれ
ある女の手紙／一錢銅貨
木内錠 —八八七／一九一九— 東京都生まれ
かとうみどり
加藤みどり —八八八／一九三二— 長野県駒ヶ根市生まれ
いわのきよ
岩野清 —八八二／一九一〇— 東京都生まれ
さじがこと
斎賀琴 —八九五／一九七二— 千葉県市原市生まれ
じゅうじのえ
伊藤野枝 —八九五／一九七〇— 徳島県板野郡市生まれ
いくたはなよ
生田花世 —八九八／一九七〇— 札幌市生まれ
得たる「いのち」（感想）／結婚前号の続

石牟礼道子 —九一七／一九一八— 熊本県天草市生まれ
森崎和江 —九一七／一九一八— 大韓民国大邱広域市生まれ
あらよし・さわ
有吉佐和子 —九三一／一九八四— 和歌山市生まれ
そのあや
曾野綾子 —九三一／一九八四— 東京都生まれ
はやし・きょう
林京子 —九三〇／一〇一七— 長崎市生まれ
えくよ・かおり
江國香織 —一九六四／一九六七— 横浜市生まれ
えくよ・かおり
桐野夏生 —一九五一／一九五一— 金沢市生まれ
さきざわ・あぐむ
鰐沢萌 —一九六八／二〇〇四— 東京都生まれ
かくた・あづよ
角田光代 —一九六七／一九六七— 横浜市生まれ
えくよ・かおり
多和田葉子 —一九六〇／一九五八— 東京都生まれ
おがわ・よみ
荻野アンナ —一九五六／一九五六— 横浜市生まれ
おぎの・あんな
山田詠美 —一九五九／一九五九— 東京都生まれ
おぎの・あんな
松本侑子 —一九六三／一九六三— 島根県出雲市生まれ
まつもと・ゆい
小川洋子 —一九六一／一九六一— 岡山市生まれ
むらだ・さきな
村田喜代子 —一九六三／一九六三— 北九州市生まれ
おぎの・あんな
高樹のぶ子 —一九五五／一九五五— 千葉県館山市生まれ
ながきの・ぶこ
李良枝 —一九五六／一九五六— 山梨県南都留郡市生まれ
い・や・じ
増田みず子 —一九四八／一九四八— 東京都生まれ
ますだ・みす
中沢けい —一九五九／一九五九— 千葉県館山市生まれ
なかざわ・けい
高樹のぶ子 —一九五五／一九五五— 千葉県館山市生まれ
ながきの・ぶこ
李良枝 —一九四六／一九四六— 東京都生まれ
い・や・じ
津島佑子 —一九四〇／一九九三— 静岡県伊東市生まれ
つしま・ゆうこ
森瑤子 —一九三〇／一九三〇— 大阪市生まれ
もり・やうこ
米谷ふみ子 —一九三八／一九三八— 札幌市生まれ
こめい・ふみこ
加藤幸子 —一九三三／一九三三— 札幌市生まれ
かとう・ゆき
河野多恵子 —一九六一／一〇一五— 大阪府生まれ
こうの・たえ
大庭みな子 —一九三〇／一〇〇七— 東京都生まれ
おおば・みなこ
富岡多恵子 —一九三五／一〇〇三— 大阪市生まれ
とみおか・たえ
高橋たか子 —一九三一／一〇一三— 京都市生まれ
たかはしたか
岩橋邦枝 —一九八一／一九八一— 广島市生まれ
いわはし・くわい
田辺聖子 —一九八一／一九八一— 大阪市生まれ
たなべ・せい
高橋由美子 —一九三五／一〇〇五— 高知県香美市生まれ
こうはし・ゆみこ
河野多恵子 —一九六一／一〇一五— 大阪府生まれ
こうの・たえ
大庭みな子 —一九三〇／一〇〇七— 東京都生まれ
おおば・みなこ
吉屋信子 —一九三三／一九七三— 新潟市生まれ
よしや・しんこ
野満七生子 —一九七一／一九八七— 兵庫県姫路市生まれ
のみぞ・なむこ
宮本百合子 —一八九八／一九五一— 東京都生まれ
みやほ・ゆりこ
鷹野つづ —一八九〇／一九四三— 静岡県浜松市生まれ
たかの・つづ
宮本百合子 —一八九八／一九七三— 新潟市生まれ
みやほ・ゆりこ
野満七生子 —一八九七／一九八七— 兵庫県姫路市生まれ
のみぞ・なむこ
高橋たか子 —一九三一／一〇一三— 京都市生まれ
たかはしたか
岩橋邦枝 —一九八一／一九八一— 广島市生まれ
たなべ・せい
田辺聖子 —一九八一／一九八一— 大阪市生まれ
たなべ・せい
高橋由美子 —一九三五／一〇〇五— 高知県香美市生まれ
こうはし・ゆみこ
河野多恵子 —一九六一／一〇一五— 大阪府生まれ
こうの・たえ
大庭みな子 —一九三〇／一〇〇七— 東京都生まれ
おおば・みなこ
吉屋信子 —一九三三／一九七三— 新潟市生まれ
よしや・しんこ
野満七生子 —一八九七／一九八七— 兵庫県姫路市生まれ
のみぞ・なむこ
宮本百合子 —一八九八／一九五一— 東京都生まれ
みやほ・ゆりこ
鷹野つづ —一八九〇／一九四三— 静岡县浜松市生まれ
たかの・つづ
宮本百合子 —一八九八／一九七三— 新潟市生まれ
みやほ・ゆりこ
野満七生子 —一八九七／一九八七— 兵庫県姫路市生まれ
のみぞ・なむこ
高橋たか子 —一九三一／一〇一三— 京都市生まれ
たかはしたか
岩橋邦枝 —一九八一／一九八一— 广島市生まれ
たなべ・せい
田辺聖子 —一九八一／一九八一— 大阪市生まれ
たなべ・せい
高橋由美子 —一九三五／一〇〇五— 高知県香美市生まれ
こうはし・ゆみこ
河野多恵子 —一九六一／一〇一五— 大阪府生まれ
こうの・たえ
大庭みな子 —一九三〇／一〇〇七— 東京都生まれ
おおば・みなこ
吉屋信子 —一九三三／一九七三— 新潟市生まれ
よしや・しんこ
野満七生子 —一八九七／一九八七— 兵庫県姫路市生まれ
のみぞ・なむこ
宮本百合子 —一八九八／一九五一— 東京都生まれ
みやほ・ゆりこ
鷹野つづ —一八九〇／一九四三— 静岡县浜松市生まれ
たかの・つづ
宮本百合子 —一八九八／一九七三— 新潟市生まれ
みやほ・ゆりこ
野満七生子 —一八九七／一九八七— 兵庫県姫路市生まれ
のみぞ・なむこ
高橋たか子 —一九三一／一〇一三— 京都市生まれ
たかはしたか
岩橋邦枝 —一九八一／一九八一— 广島市生まれ
たなべ・せい
田辺聖子 —一九八一／一九八一— 大阪市生まれ
たなべ・せい
高橋由美子 —一九三五／一〇〇五— 高知県香美市生まれ
こうはし・ゆみこ
河野多恵子 —一九六一／一〇一五— 大阪府生まれ
こうの・たえ
大庭みな子 —一九三〇／一〇〇七— 東京都生まれ
おおば・みなこ
吉屋信子 —一九三三／一九七三— 新潟市生まれ
よしや・しんこ
野満七生子 —一八九七／一九八七— 兵庫県姫路市生まれ
のみぞ・なむこ
宮本百合子 —一八九八／一九五一— 東京都生まれ
みやほ・ゆりこ
鷹野つづ —一八九〇／一九四三— 静岡县浜松市生まれ
たかの・つづ
宮本百合子 —一八九八／一九七三— 新潟市生まれ
みやほ・ゆりこ
野満七生子 —一八九七／一九八七— 兵庫県姫路市生まれ
のみぞ・なむこ
高橋たか子 —一九三一／一〇一三— 京都市生まれ
たかはしたか
岩橋邦枝 —一九八一／一九八一— 广島市生まれ
たなべ・せい
田辺聖子 —一九八一／一九八一— 大阪市生まれ
たなべ・せい
高橋由美子 —一九三五／一〇〇五— 高知県香美市生まれ
こうはし・ゆみこ
河野多恵子 —一九六一／一〇一五— 大阪府生まれ
こうの・たえ
大庭みな子 —一九三〇／一〇〇七— 東京都生まれ
おおば・みなこ
吉屋信子 —一九三三／一九七三— 新潟市生まれ
よしや・しんこ
野満七生子 —一八九七／一九八七— 兵庫県姫路市生まれ
のみぞ・なむこ
宮本百合子 —一八九八／一九五一— 東京都生まれ
みやほ・ゆりこ
鷹野つづ —一八九〇／一九四三— 静岡县浜松市生まれ
たかの・つづ
宮本百合子 —一八九八／一九七三— 新潟市生まれ
みやほ・ゆりこ
野満七生子 —一八九七／一九八七— 兵庫県姫路市生まれ
のみぞ・なむこ
高橋たか子 —一九三一／一〇一三— 京都市生まれ
たかはしたか
岩橋邦枝 —一九八一／一九八一— 广島市生まれ
たなべ・せい
田辺聖子 —一九八一／一九八一— 大阪市生まれ
たなべ・せい
高橋由美子 —一九三五／一〇〇五— 高知県香美市生まれ
こうはし・ゆみこ
河野多恵子 —一九六一／一〇一五— 大阪府生まれ
こうの・たえ
大庭みな子 —一九三〇／一〇〇七— 東京都生まれ
おおば・みなこ
吉屋信子 —一九三三／一九七三— 新潟市生まれ
よしや・しんこ
野満七生子 —一八九七／一九八七— 兵庫県姫路市生まれ
のみぞ・なむこ
宮本百合子 —一八九八／一九五一— 東京都生まれ
みやほ・ゆりこ
鷹野つづ —一八九〇／一九四三— 静岡县浜松市生まれ
たかの・つづ
宮本百合子 —一八九八／一九七三— 新潟市生まれ
みやほ・ゆりこ
野満七生子 —一八九七／一九八七— 兵庫県姫路市生まれ
のみぞ・なむこ
高橋たか子 —一九三一／一〇一三— 京都市生まれ
たかはしたか
岩橋邦枝 —一九八一／一九八一— 广島市生まれ
たなべ・せい
田辺聖子 —一九八一／一九八一— 大阪市生まれ
たなべ・せい
高橋由美子 —一九三五／一〇〇五— 高知県香美市生まれ
こうはし・ゆみこ
河野多恵子 —一九六一／一〇一五— 大阪府生まれ
こうの・たえ
大庭みな子 —一九三〇／一〇〇七— 東京都生まれ
おおば・みなこ
吉屋信子 —一九三三／一九七三— 新潟市生まれ
よしや・しんこ
野満七生子 —一八九七／一九八七— 兵庫県姫路市生まれ
のみぞ・なむこ
宮本百合子 —一八九八／一九五一— 東京都生まれ
みやほ・ゆりこ
鷹野つづ —一八九〇／一九四三— 静岡县浜松市生まれ
たかの・つづ
宮本百合子 —一八九八／一九七三— 新潟市生まれ
みやほ・ゆりこ
野満七生子 —一八九七／一九八七— 兵庫県姫路市生まれ
のみぞ・なむこ
高橋たか子 —一九三一／一〇一三— 京都市生まれ
たかはしたか
岩橋邦枝 —一九八一／一九八一— 广島市生まれ
たなべ・せい
田辺聖子 —一九八一／一九八一— 大阪市生まれ
たなべ・せい
高橋由美子 —一九三五／一〇〇五— 高知県香美市生まれ
こうはし・ゆみこ
河野多恵子 —一九六一／一〇一五— 大阪府生まれ
こうの・たえ
大庭みな子 —一九三〇／一〇〇七— 東京都生まれ
おおば・みなこ
吉屋信子 —一九三三／一九七三— 新潟市生まれ
よしや・しんこ
野満七生子 —一八九七／一九八七— 兵庫県姫路市生まれ
のみぞ・なむこ
宮本百合子 —一八九八／一九五一— 東京都生まれ
みやほ・ゆりこ
鷹野つづ —一八九〇／一九四三— 静岡县浜松市生まれ
たかの・つづ
宮本百合子 —一八九八／一九七三— 新潟市生まれ
みやほ・ゆりこ
野満七生子 —一八九七／一九八七— 兵庫県姫路市生まれ
のみぞ・なむこ
高橋たか子 —一九三一／一〇一三— 京都市生まれ
たかはしたか
岩橋邦枝 —一九八一／一九八一— 广島市生まれ
たなべ・せい
田辺聖子 —一九八一／一九八一— 大阪市生まれ
たなべ・せい
高橋由美子 —一九三五／一〇〇五— 高知県香美市生まれ
こうはし・ゆみこ
河野多恵子 —一九六一／一〇一五— 大阪府生まれ
こうの・たえ
大庭みな子 —一九三〇／一〇〇七— 東京都生まれ
おおば・みなこ
吉屋信子 —一九三三／一九七三— 新潟市生まれ
よしや・しんこ
野満七生子 —一八九七／一九八七— 兵庫県姫路市生まれ
のみぞ・なむこ
宮本百合子 —一八九八／一九五一— 東京都生まれ
みやほ・ゆりこ
鷹野つづ —一八九〇／一九四三— 静岡县浜松市生まれ
たかの・つづ
宮本百合子 —一八九八／一九七三— 新潟市生まれ
みやほ・ゆりこ
野満七生子 —一八九七／一九八七— 兵庫県姫路市生まれ
のみぞ・なむこ
高橋たか子 —一九三一／一〇一三— 京都市生まれ
たかはしたか
岩橋邦枝 —一九八一／一九八一— 广島市生まれ
たなべ・せい
田辺聖子 —一九八一／一九八一— 大阪市生まれ
たなべ・せい
高橋由美子 —一九三五／一〇〇五— 高知県香美市生まれ
こうはし・ゆみこ
河野多恵子 —一九六一／一〇一五— 大阪府生まれ
こうの・たえ
大庭みな子 —一九三〇／一〇〇七— 東京都生まれ
おおば・みなこ
吉屋信子 —一九三三／一九七三— 新潟市生まれ
よしや・しんこ
野満七生子 —一八九七／一九八七— 兵庫県姫路市生まれ
のみぞ・なむこ
宮本百合子 —一八九八／一九五一— 東京都生まれ
みやほ・ゆりこ
鷹野つづ —一八九〇／一九四三— 静岡县浜松市生まれ
たかの・つづ
宮本百合子 —一八九八／一九七三— 新潟市生まれ
みやほ・ゆりこ
野満七生子 —一八九七／一九八七— 兵庫県姫路市生まれ
のみぞ・なむこ
高橋たか子 —一九三一／一〇一三— 京都市生まれ
たかはしたか
岩橋邦枝 —一九八一／一九八一— 广島市生まれ
たなべ・せい
田辺聖子 —一九八一／一九八一— 大阪市生まれ
たなべ・せい
高橋由美子 —一九三五／一〇〇五— 高知県香美市生まれ
こうはし・ゆみこ
河野多恵子 —一九六一／一〇一五— 大阪府生まれ
こうの・たえ
大庭みな子 —一九三〇／一〇〇七— 東京都生まれ
おおば・みなこ
吉屋信子 —一九三三／一九七三— 新潟市生まれ
よしや・しんこ
野満七生子 —一八九七／一九八七— 兵庫県姫路市生まれ
のみぞ・なむこ
宮本百合子 —一八九八／一九五一— 東京都生まれ
みやほ・ゆりこ
鷹野つづ —一八九〇／一九四三— 静岡县浜松市生まれ
たかの・つづ
宮本百合子 —一八九八／一九七三— 新潟市生まれ
みやほ・ゆりこ
野満七生子 —一八九七／一九八七— 兵庫県姫路市生まれ
のみぞ・なむこ
高橋たか子 —一九三一／一〇一三— 京都市生まれ
たかはしたか
岩橋邦枝 —一九八一／一九八一— 广島市生まれ
たなべ・せい
田辺聖子 —一九八一／一九八一— 大阪市生まれ
たなべ・せい
高橋由美子 —一九三五／一〇〇五— 高知県香美市生まれ
こうはし・ゆみこ
河野多恵子 —一九六一／一〇一五— 大阪府生まれ
こうの・たえ
大庭みな子 —一九三〇／一〇〇七— 東京都生まれ
おおば・みなこ
吉屋信子 —一九三三／一九七三— 新潟市生まれ
よしや・しんこ
野満七生子 —一八九七／一九八七— 兵庫県姫路市生まれ
のみぞ・なむこ
宮本百合子 —一八九八／一九五一— 東京都生まれ
みやほ・ゆりこ
鷹野つづ —一八九〇／一九四三— 静岡县浜松市生まれ
たかの・つづ
宮本百合子 —一八九八／一九七三— 新潟市生まれ
みやほ・ゆりこ
野満七生子 —一八九七／一九八七— 兵庫県姫路市生まれ
のみぞ・なむこ
高橋たか子 —一九三一／一〇一三— 京都市生まれ
たかはしたか
岩橋邦枝 —一九八一／一九八一— 广島市生まれ
たなべ・せい
田辺聖子 —一九八一／一九八一— 大阪市生まれ
たなべ・せい
高橋由美子 —一九三五／一〇〇五— 高知県香美市生まれ
こうはし・ゆみこ
河野多恵子 —一九六一／一〇一五— 大阪府生まれ
こうの・たえ
大庭みな子 —一九三〇／一〇〇七— 東京都生まれ
おおば・みなこ
吉屋信子 —一九三三／一九七三— 新潟市生まれ
よしや・しんこ
野満七生子 —一八九七／一九八七— 兵庫県姫路市生まれ
のみぞ・なむこ
宮本百合子 —一八九八／一九五一— 東京都生まれ
みやほ・ゆりこ
鷹野つづ —一八九〇／一九四三— 静岡县浜松市生まれ
たかの・つづ
宮本百合子 —一八九八／一九七三— 新潟市生まれ
みやほ・ゆりこ
野満七生子 —一八九七／一九八七— 兵庫県姫路市生まれ
のみぞ・なむこ
高橋たか子 —一九三一／一〇一三— 京都市生まれ
たかはしたか
岩橋邦枝 —一九八一／一九八一— 广島市生まれ
たなべ・せい
田辺聖子 —一九八一／一九八一— 大阪市生まれ
たなべ・せい
高橋由美子 —一九三五／一〇〇五— 高知県香美市生まれ
こうはし・ゆみこ
河野多恵

〔監修者のいとば〕

本全集は、近代出発期から現代までの女性文学を集成した日本ではじめての〈女性文学全集〉です。

このに収めた二一〇余年にわたる作品の集積は、

一九世紀末から二世紀初頭にかけての女性表現の通史であり、女性文学の豊饒な全体像と深化を可能な限り周密かつ

包括的に浮かび上がらせるこことをめざして編集したものです。

男性による文学とは異なる、女性文学独自のテーマや

視点を浮き彫りにし、女性たちが何を見つめ、考え、表現しようとしたかを通じて、女性文学が切り拓いてきた

文化と地平を明らかにすることを意図しました。

現在、女性作家の活躍はめざましいばかりですが、今日、

フェミニズム批評やジェンダー批評成熟のなかで、女性文学の読み直しと再評価が進み、

その位置づけは大きく変容してきています。

こののような状況のなかでの本全集刊行は、

日本における女性文学の全容とその可能性を俯瞰するところであり、豊かな世界を紡ぎだしてきた女性文学の真価を世に問う企図でもあります。

本書は第1巻より第4巻までを青柿堂せいじとうから

刊行しておりましたが、同社解散のため、

版元を六花出版として刊行を継続することとなりました。

引き続き本全集刊行に、広く読書界のご支持を

お願い申し上げます。

〔刊行概要〕

第1巻—〈既刊〉ISBN978-4-86617-043-5

第2巻—〈既刊〉ISBN978-4-86617-044-2

第3巻—〈既刊〉ISBN978-4-86617-045-9

第4巻—〈既刊〉ISBN978-4-86617-046-6

第5巻—10一八年六月刊 ISBN978-4-86617-047-3

第6巻—10一八年九月刊 ISBN978-4-86617-048-0

第7巻—10一八年一一月刊 ISBN978-4-86617-049-7

第8巻—10一九年三月刊 ISBN978-4-86617-050-3

第9巻—10一九年六月刊 ISBN978-4-86617-051-0

第10巻—10一九年九月刊 ISBN978-4-86617-052-7

第11巻—10一九年一一月刊 ISBN978-4-86617-053-4

第12巻—10一九年二月刊 ISBN978-4-86617-054-1

♦各巻定価=5000円+税

♦体裁=菊判／並製／本文14級／段組み／各巻平均五五〇ページ

日本女性文学全集

〔新編〕
全12巻



六花出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-28

電話:03-3293-8787

Fax:03-3293-8788

<http://rikka-press.jp>